

# 信用調査報告書

有限会社

殿

報告月日

調査担当員

平成00年00月00日

2課

商号	株式会社			設立	昭和00年00月00日	創業	昭和00年
				代表者			
住所	県市町 00-00-00				電話	000-000-0000	
業種	運送業				決算	00月00日	年00%
資本金	00,000千円	最近平均月間売上	00,000千円		就業員数	00名	
格付 (点数)	注意不要	当面注意不要	多少注意		一応警戒	厳警戒	
	~76以上	75~60	59~46		45~31	30以下	
			48				
点数		~6	5	4	3	2~0	採点
収益性	既往実績	業績顕著	業績漸伸	業績安定	低調	じり貧	14点
	近況収益力	極好調	上伸	安定	収支一杯	不振	
	将来性	将来性豊	漸時向上	相応	不安定	悪化	
	主製品の市況	独占好況	占有度高い	需給普通	供給過剰	斜陽	
	経営振り	極良	良好	先ず普通	やや劣る	不良	
活動能力	設備技術	完璧	充実	普通	やや拙列	不満	20点
	経営者	卓抜	充実	普通	やや難あり	不安	
	販売先	1流安定	1-2流安定	無難	やや弱い	不良先多い	
	仕入先支援度	1流安定	1-2流安定	支援普通	やや浮動	信用不安	
	立地条件	優秀	良好	普通	隘路多い	不良	
資産信用	支払能力	余裕あり	やや余裕	普通	やや多忙	逼迫	14点
	資金調達力	強力	有力	先ず普通	薄弱	なし	
	銀行信用	強力	良好	相応	やや薄弱	敬遠	
	業界信用	A級	B級	C級	D級	E級	
特殊事情に基づく増点						(+)	点
特殊事情に基づく減点						(-)	点
財務諸表公開の有無及信憑性...						総合	48点

## 【診断の結果】

最初の設立は昭和00年00月であるが、一旦清算して平成00年00月に再度設立して現在に至っている。主業は運送業である。受注先は0ヶ所あるが内0箇所は関係である。

業況は売上高が下がって来ており、損益では営業利益でマイナスの状態である。マイナスとなる理由は、売上高に比較して就業員が00名と多過ぎる事である。資金面では、金融機関の借入はなく社長からの借入があるだけである。しかし、採算割れを克服する為には従業員を大幅に削減する等、大胆な改革をしない事には先行きに大いに不安のある会社である。

# 会 社 構 成

設 立	昭和 00 年 00 月 00 日	創 業	昭和 00 年 00 月 00 日
目 的	1. 一般貨物自動車運送事業 2. 貨物運送取扱業 3. 上記各号に附帯する一切の事業		
資 本 金	00,000 千円	株 式	授權株数 0,000 株 発行済株数 000 株
			株 価 円
役 名	担 当 業 務	氏 名	持 株 参 考 事 項
代表取締役	社 長		80%
取 締 役	非 常 勤		社長の長男
取 締 役	非 常 勤		社長の妻
監 査 役	非 常 勤		
株 主 総 数	0 名	資本系列	販売系列
役 員 外 大 株 主		20%	株
		株	株
		株	株

## 経 営 規 模

常勤役員	0名	従業員 内訳	職員	男 00名	女 0名	
従業人員	00名		工員	男 名	女 名	
従業員 平均年齢	00才	平均給与	00万円		労組	ない
					協調性	A B C D

### 【設備内容】

本社（肩書地）

支店	県	市	00-00	00-0000-0000
支店	県	市	00-00	00-0000-0000
支店	県	市	00-00	00-0000-0000

車軸

10トン車 3輛（内1輛リース）

4トン車 9輛（内3輛リース）

2トン車 5輛

合計 17 輛

不動産	会社名義 ... 有・ <input type="radio"/> 無 代表者名義 ... <input checked="" type="radio"/> 有・無	抵 当 権	有 ... 入担先 無 ... 公簿確認済
火災保険	契約金額 千円・契約会社		



# 経営者

氏名(ふりがな)

昭和00年00月00日生(00才)

現住所

県 市 町 00-00-0

出身地

県

最終学歴

大学卒業

斯業経験

00年

誠実性

事業意欲

識見

統率力

実行力

資金調達力

健康状態

A B C D

A B C D

A B C D

A B C D

A B C D

A B C D

A B C D

商人型

事業家型

サラリーマン型

経理型

学者型

職人型

技術者型

## 【経歴】

昭和00年00月 高校を卒業  
昭和00年00月 (株)に入社  
昭和00年00月 同社を退職  
昭和00年00月 (株)に転ずる  
平成00年 同社代表取締役就任  
平成00年00月 (株)閉鎖  
平成00年00月 新たに (株)を設立  
代表取締役就任、現在に至っている。

関係事業  
(兼職、公職)

特になし

資産状況

自宅の土地、建物が本人名義のようであるが未確認

## 営業状況(仕入、支払)

品 目	仕 入 先	金 額 又 は %	備 考 ( 取 引 歴 等 )
燃 料	区 協同組金( 等 )		
タイヤ	のディーラー・ タイヤ	00%	県 市
修 理	のディーラー	00%	県 市
仕 入 ル ー ト	メーカー                      % ・ 商社                      % ・ 輸 入                      %		
支 払 条 件	延 現 金 ( 日 以 内 )                      100%	月 末 日 〆 切 翌 々 末 日 払	手 形 サ イ ト 平 均                      日
	手 形 ( 日 ~ 日 )                      %		
	廻 し 手 形 ( 日 ~ 日 )                      %	月 間 支 払 率                      %	
	相 殺 ( 日 ~ 日 )                      %		
支 払 振 り	確 実 ・ <u>普 通</u> ・ 先 ず 普 通 ・ 遅 延 傾 向 ・ 不 良		
仕 入 先 意 見	問 題 の な い 取 引 が 行 わ れ て い る と 評 し て い る		
棚 上 債 務 の 有 無	な い		

## 営業状況(販売・回収)

取扱品目	%	取扱品目	%	販路	%
一般運送業	100				
品目	販売先		金額又は%		備考
	(株)				
	本社				
	支店				
	支店				
販売先総数	約社	販売ルート	需要家 %	業者 %	輸出 %
回収条件	現金(区々日以内)		100%	区々日≠切り 翌月末日受	
	手形(日~日)		%	手形サイト平均 日	
	相殺		%	月間回収率 %	
回収振り	確 実 ・ 普 通 ・ 先 ず 普 通 ・ 遅 延 傾 向 ・ 不 良				
不良債権の有無及その処理方法	特記するような焦付の発生はない				

## 既 往 の 業 績 ( 決算期 3 月 )

期 別	売上高 (千円)	営業利益 (千円)	純利益 (千円)	配当	従業員数
平成 10 年 3 月期	000,000	000,000	000,000	0%	00 名
平成 11 年 3 月期	000,000	000,000	000,000	0%	00 名
平成 12 年 3 月期	000,000	000,000	000,000	0%	00 名
平成 13 年 3 月期	000,000	000,000	000,000	0%	00 名
平成 14 年 3 月期	000,000	000,000	000,000	0%	00 名
平成 15 年 3 月期	000,000	000,000	000,000	0%	00 名

最近の業績は上表の通りである。

売上高の推移を見ると年々下がって来ている。一方損益の方も下方しており、平成13年3月期はついに0,000千円の純損失を出している。

尚、平成13年3月期財務分析の大筋を見ると、支払能力を示す流動比率は000.00% (同業者平均000.00%)、当面の支払能力を示す当座比率000.00% (平均00.00%)と両方とも平均をかなり上廻っており、数値を見る限り支払面での不安はない。会社の競争力を見る負債比率0.00倍 (平均0.00倍この値は低い方が良い)と低く、競争力がそこそこある格好となっている。会社の安定感を見る自己資本率00.00% (平均000.00%)となっており安定感もある。このようにバランスシートの面では、問題のない会社と云える状態である。しかし、損益では平成13年3月営業損益の段階で0,000千円のマイナスとなっており芳しい状態ではない。



## 最近の業況 (仕入管理・販売政策・採算性・計画・見通し)

(前期平均月商) 00,000 千円		最近3ヵ月売上高趨勢表						
最近月間平均収支状況 (単位: 千円)		千円	千円	千円	千円			
売上高	00,000	千円	最近3ヵ月間の月平均売上高は、 00,000 千円内外である。					
売上原価	00,000	千円						
売上利益	( 0,000 )	千円						
一般管理費	0,000	千円						
営業利益	( 000 )	千円						
営業外収入	00	千円						
営業外支出	00	千円						
差引差益	( 000 )	千円						
		年				月	月	月
繁忙期	月 最高	百万				受注		
閑散期	月 最低	百万	残高					
			成約					
備考		前期一人当平均月商	千円					
		今期一人当	千円					

**【概況】**

別紙

## 【概 況】

当初の設立は昭和 00 年 00 月で、 氏によって設立されている。しかし業績が思わしくなく、その為 氏が別に営んでいた不動産の方から、 株に相当額の資金を投入していた。従って 氏としては 氏からかなりの借入を行っていた格好となっていた。 氏が死亡した後も、同氏から借入したままで、事業が運営されていた格好となっていたものを遺族との話し合いで、旧 (株)は清算会社とした。平成 00 年 00 月新たに同名の (株)として設立し、運送業を営み今日に至っている。今回の調査の目的が当社を買取るための調査という事ですので、過去の行きさつは余り問題ないと思われます。必要な事は当社が今現在どのような状態にあるのかと言う事と、買い取った場合どのような問題が考えられるかという事であると思われる。

先ず現状であるが、対借貸照表では先ず健全と云える状態を維持している。しかし、損益の方では売上が年々下がって来た結果、平成 13 年 3 月期営業利益の段階で赤字となっている。組利では 00.00% (平均 00.00%) と平均よりかなり高い。しかし一般管理費が 00.00% (平均 00.00%) と非常に高くなっている事は、売上原価に含める勘定科目を販管費の方に入れているのではという考えもあるが、いずれにしても従業員が 00 名で年間売上高 000.00 千円というのは、一人当たりの年売上が 0,000 千円という事になり本来の年売上高は 00,000 千円 (平均) が望ましい事に比べると著しく少ない額である。これでは営業損益がマイナスとなる事も当然である。又、事業所が三ヶ所あるが、三ヶ所の月家賃の合計が 000 千円と此れも売上高に比べて掛り過ぎの感が否めない。以上の状態の当社を購入するのであれば、当社の社長の責任で従業員数を採算に合うだけの人員に削減してもらった上でなければ、後々問題が生じる原因となるのではないと思われる。当社の受注先は 0 社であるが内 0 ヶ所は当社社長が勤めていた 関連であり、買取った後暫くの間は取引の継続が可能であるが、当社の社長のような強い撃りはなくなるので、今後も長く取引が続けられるという保障はない。従って、受注先を商権として高く評価する事は極めて危険である。又、当社は 17 台の車輛 (内 4 輛はリース) を所有しているとのことであるが、当社の社長の人柄から見て所有台数には問題はなさそうである。しかし一台々の車輛を見た訳ではないので、走行距離等が全く判らない。更に車検の期限、車輛の状態等を含めて、全て購入する方向で進むのであれば各車の点検が必要である。只、云える事は年商 000,000 千円で、今後落ち込む事は予想されるが伸ばす事は非常に難しい状況である事と、現時点で営業損益がマイナスとなっている等を勘案すると余り妙味はないと云わざるを得ない。

(有) 様から見て、規模を拡大する事だけでも意味があるというのなら別であるが、当社を購入して当社で利益を挙げて行くと考えるのは、先ず無理であると考えられます。結論的には、基本的に当社は債権債務の面では問題ないが受注先 (商権) は今後に不安定感があり、車輛の状態も明確でなく現在営業損益でマイナスとなっている事を考え合わせると、購入値段として妥当なところはせいぜい 00,000 千円止まりではないかと思われます。従って良く熟慮されて取り組まれる事が肝心であると思料されます。